

令和5年12月4日

天理市議会議長
大橋基之 様

文教厚生委員会
委員長 石津雅恵

文教厚生委員会視察報告書

視察日程： 令和5年10月11日（水）～10月12日（木）

視察先及び調査事項：

① 静岡県牧之原市 10月11日（水）13時30分～15時
調査事項「学校再編計画について」

② 静岡県藤枝市 10月12日（木）9時～10時30分
調査事項「小中英語接続プラン、ふじえだ教師塾、全国学力・
学習状況調査における好結果の要因等について」

視察議員	委員長	石津雅恵
	副委員長	鳥山淳一
	委員	大橋基之
	委員	藤本さゆり
	委員	神田和彦
	委員	山田哲生

随 行 議会事務局 上田泰司

1. 静岡県牧之原市

調査事項【学校再編計画について】

視察先対応者：議長 植田博巳氏

議会事務局職員 1名

学校再編推進室職員 2名

①目的

平成29年より学校再編についての議論が進められ、2030年に義務教育学校2校の新設を目指す中で、再編計画やその過程を学ぶことを目的とする。天理市も同様の課題を抱えていることから、子ども達を主体とした教育環境の在り方についても学ぶことを目的とする。

②施策概要

牧之原市は、市内に市立小学校8校、市立中学校2校、学校組合立小学校1校、学校組合立中学校2校（うち1校は他市が管理）あり、ほとんどの校舎が建築から40年以上経過している。

また、市立小中学校に在籍する児童生徒数も同様で、現在はピーク時の半数程度となっており、人口は、20年後に3万人を割り込む予測がされている。

そのようなことから、平成27年策定の教育大綱において、小学校の規模と配置の適正化について記載され、平成28年度策定の公共施設マネジメント基本計画においても、小中学校再編計画について記載された。

小中学校の再編に当たっては、児童生徒数の減少や施設が更新時期を迎えていることだけを理由に再編を考えるのではなく、社会の変化が激しいこれからを生きる子どもたちが、育ち、学ぶ場所としてどのような環境が必要か、牧之原市の目指す教育環境を明確にするため、「牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針」を策定した。

学校再編計画を検討するにあたり、牧之原市では、「自治基本条例」及び「牧之原市政への市民参加に関する条例」により市民の意見を聞く機会を十分に設けなければならないとしている。

あり方に沿って学校再編を検討するにあたり、多くの意見を取り入れることができるよう、十分な市民参加の機会を設けることを意識され、専門家、教員、保護者、地域及び公募の者の10人で構成する学校再編計画策定委員会を設置し、目指す学校像をつくり、その実現のための学校規模、学校区の案を検討された。

特に学校区は、再編計画の核となる部分であり、市民にとって思い入れがある部分であるため、全小中学校区において、自治会、小中学校の保護者、幼稚園・保育園・こども園の保護者などを対象にワークショップを開催し、意見や新しい学校への期待や不満を聞き、市民意見を反映しながら、学校区の考えを固めていった。

現在まで、説明会、意見交換会、パブリックコメント等で市民参加機会119回、参加人数のべ約4,300人、意見数約5,000件となっている。

また、計画を進めるにあたり、現在の進捗状況が全市民に周知されるよう、市広報紙、教育委員会だより、ホームページ、LINE、学校再編計画概要版全戸配布、勉強会、シンポジウム、講演会等を実施している。

様々検討された結果、2030年に、小学校8校、中学校2校を再編して新たに2校の義務教育学校が作られることが決定している。

③参考資料

1. [当日式次第](#)
2. [「みんなの学校」をつくろう！](#)
3. [新しい学校づくりが始まりました](#)
4. [2030年牧之原市の学校が新しくなります](#)

5. 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画
6. ～学校再編計画～
7. その他

④ 考察と今後の課題

《考察》

牧之原市では、計画を進める際、ワークショップ等を開催し、市長と市民の対話だけでなく、学校保護者と地域の住民との対話など、様々な立場や年齢の人が子どもの教育環境のあり方について議論する場を十分設けることで、市民の意見がまとまっていったと考えられる。

今後、本市においても、人口減少や施設老朽化が進む中、学校再編、校区再編などの対応を求められることもあると思うが、その際は、市が目指す教育を示し、市民と十分に意見交換を行うとともに、随時情報の公開を行いながら事業を進めることが大切と考える。

そのためには、天理市の教育のあり方を考え、子どもたちにとって最適な教育環境を研究し、今後の方向性を決定していくとともに、現状の施設の状況や今後の児童数の推計などを広く市民に告知し、共通理解を図っていく必要があると考える。

2. 静岡県藤枝市

調査事項

「小中英語接続プラン、ふじえだ教師塾、全国学力・学習状況調査における好結果の要因等について」

視察先対応者 議長 山根一氏 ・ 藤枝市議 植田裕明氏

議会事務局職員 1 名

教育政策課職員 3 名

① 目的

「教育日本一」と公言し、関係する事業の実施から結果までの工程を学び、学力向上及び教職員の資質向上・人材確保に向けた取組について学び成果を持ち返ることを目的とする。

② 施策概要

〈小中接続英語プラン〉

藤枝市の英語教育の目標として、中学校卒業時にはだれもが英語で簡単な情報や考えなどを表現したり、伝えることができることを目標に取り組んでいる。

小学3年生から中学3年生の全てのクラスで、週1時間はALTのティームティ칭ングを行っており、そのためにALTをJETプログラムから9名、直接雇用で10名任用している。また、各中学校区の小学6年生と中学1年生は同じALTが担当し、ギャップをなくすように心がけている。

そのほか、年4回市内在住児童生徒から希望者を募って、ALTを使っの課外活動Fujieda English Camp、授業中に複数のALTが集まり生徒が発表を行うInternational Party、姉妹都市であるオーストラリアペンリス市の児童生徒と行うオンライン英会話、中学3年生の英語力調査やタブレットを使った英語の課外活動などを行う。

〈ふじえだ教師塾〉

教育日本一を目指す取り組みとして市長が発案された。「大学生・院生コース」「講師・社会人コース」「教職 2, 3 年目コース」「30 歳前後教員コース」の 4 つのコースがあり、今年で 11 年目を迎えた。

目的として、「教職につきたい希望を持っている人に、人を育てるという職業のすばらしさと大切さを伝え、教職に就くことの誇りと気概を育てる」、「若手教員や講師の授業力や学級経営力を高める」、「人として、目的をもって生きていくことの大切さを伝え、強い信念を持った人の育成を図る」、「藤枝市がめざす教育・授業について理解する」の 4 つを掲げている。

受講者は合計で令和 2 年 115 名、令和 3 年 119 名、令和 4 年 102 名となっており、受講者の教員採用試験の合格率は 65%以上となっている。また、研修機会が少なくなる教職 2、3 年目教員へは授業力、学校経営力の向上を図り、30 歳前後教員へは、深い学びに向けての授業改善、理想の教師像を求めることなどをテーマに講座・講話を行っている。

〈全国学力・学習状況調査の結果の要因等について〉

令和 5 年度の結果では、小学校の全ての教科で全体を上回り、中学校では国語・算数で全体を大きく上回り、英語は全体を上回る成績を残した。

藤枝市では、「授業で人を育てる」という理念のもと、小中学校 9 年間を通して、小学校と中学校の学びをスムーズに接続していくことを目的として「藤枝型授業モデル」を作成し、小中学校それぞれの学びにおいて大切にしていることを共有している。

また、藤枝市独自に「学習指導要領内容系統一覧表」及び「単元教材一覧表」を作成し教師間での共通意識を持っている。

④参考資料

- 1、[当日式次第](#)
- 2、[教育日本一に向けた取り組みについて](#)
- 3、[藤枝市教育振興基本計画](#)
- 4、[藤枝市議会だより](#)

⑤考察と今後の課題

藤枝市では、市の重点戦略として「暮らしの4K」（教育・健康・環境・危機管理）を提唱し、『まちづくりは人づくり、子どもから大人までキラキラとした笑顔が輝く「教育日本一」のまち』を目指している。

教育において様々な取り組みをされており、特徴的な取り組みとして、ふじえだ英語塾とふじえだ教師塾があげられる。

ふじえだ英語塾ではALTを合計で19人任用し、授業数の確保に努めている。ALTをJETプログラムで任用すると、住居の用意や日常生活のサポートなどが必要となってくることから、市の直接雇用を積極的に行っている。天理市においても、今後ALTを増員する際は近隣在住の外国人などの直接雇用を増やすことで、職員の負担軽減が図れると考える。

ふじえだ教師塾は、教員を目指すものに市の教育を理解していただくと共に、すでに教鞭を取っている教員の指導力向上や、教員のモチベーションアップにつながる有意義な施策と考える。他市にない取り組みであり、天理市においても実施できればと考える。

また、藤枝市は小学校と中学校の学びをスムーズに接続してくことを目的に藤枝型授業モデルを作成しているが、天理市の教育においても、児童生徒が小中学校間のギャップに戸惑うことなく、学ぶことができるように、小中学校の教諭間での授業研究や意見交換を積極的に行うことが大切と考える。

課題としては、藤枝市と天理市では教員数や財政規模が違う中、同様の施策を行うことは困難と感じる。しかしながら、現在の天理市の状況で賄えている部分や足りていない部分などを十分精査し、良い点を取り入れられるよう工夫していくことが大切である
と考える。